

# 第一章 壊れ行く世界

## 1

そんな都合良く夢など見られるわけもなく。結局目覚ましに叩き起こされタイムアップと  
なった。

最初に起きた時はあんなに爽やかな目覚めだったのに、二度寝した御陰でいつも通り体は  
重く、怠い体を引きずるようにして学校に来ることになってしまった。

「つたく、目が覚めるなら5分位前にしてくれよ」

欠伸を噛みしめ、何処にも向けることのできない不満を口にする。

数学というつまらない授業にも飽きて来たので、難解な数式を見るのを諦めボンヤリと視  
線を窓の外に移してみると、校庭を走らされている気の毒な一年生の姿が目に入ってきた。

「あゝあ、可愛そうにねえ」

今にも死んでしまいそうな苦しい表情を見ていると、思わず同情と同時に怒りが湧き上  
がって来る。

なんだってあんなことをやらされなければならないのだろうか？